

公立大学法人宮崎公立大学
令和3年度業務実績に関する評価結果

令和4年8月

宮崎市公立大学法人評価委員会

目次

1 評価方法	…	2
2 全体評価	…	5
3 項目別評価	…	9
(1) 教育に関する目標	…	9
(2) 研究に関する目標	…	12
(3) 地域貢献に関する目標	…	13
(4) 国際化に関する目標	…	14
(5) 業務運営の改善及び効率化に関する目標	…	15
(6) 財務内容の改善に関する目標	…	17
(7) 自己点検・評価及び情報公開・提供に関する目標	…	19
(8) 大学改革に関する目標	…	20

1 評価方法

宮崎市公立大学法人評価委員会は、公立大学法人宮崎公立大学（以下、「公立大学法人」という。）が作成した業務実績報告書を基に、法人の意見を聴取し、下記のとおり評価を行った。

(1) 評価の構成

「項目別評価」と「全体評価」による。

(2) 項目別評価の方法

中期目標に掲げる8つの大項目ごとに、以下の5段階により、実施状況を評価する。なお、特筆すべき点や遅れている点については、取組の概要を記述する。

(中期目標に掲げる8つの大項目)

- ①教育に関する目標 ②研究に関する目標 ③地域貢献に関する目標
- ④国際化に関する目標 ⑤業務運営の改善及び効率化に関する目標
- ⑥財務内容の改善に関する目標
- ⑦自己点検・評価及び情報公開・提供に関する目標 ⑧大学改革に関する目標

(評価基準)

評価	判断の目安
S 中期計画の進捗は 優れて順調	・「個別記載事項ごと」の評点の平均値が4.3以上であり、かつ、顕著な実績や特に優れた成果があると評価委員会が認める場合
A 中期計画の進捗は 順調	・「個別記載事項ごと」の評点の平均値が3.5以上4.2以下であり、かつ、評価委員会が「A」評価と認める場合 ・「個別記載事項ごと」の評点の平均値が3.5以上4.2以下に満たないが、取組内容や実績、成果等を総合的に勘案して評価委員会が「A」評価相当と認める場合
B 中期計画の進捗は 概ね順調【標準】	・「個別記載事項ごと」の評点の平均値が2.7以上3.4以下であり、かつ、評価委員会が「B」評価と認める場合 ・「個別記載事項ごと」の評点の平均値が2.7以上3.4以下に満たないが、取組内容や実績、成果等を総合的に勘案して評価委員会が「B」評価相当と認める場合
C 中期計画の進捗は やや遅れている	・「個別記載事項ごと」の評点の平均値が1.9以上2.6以下であり、かつ、評価委員会が「C」評価と認める場合 ・「個別記載事項ごと」の評点の平均値が1.9以上2.6以下に満たないが、取組内容や実績、成果等を総合的に勘案して評価委員会が「C」評価相当と認める場合
D 中期計画の進捗は 著しく遅れている	・「個別記載事項ごと」の評点の平均値が1.8以下である場合

(個別記載事項ごとの評価)

項目ごとの評価を実施するため、年度計画の個別記載事項ごとに、以下の5段階の達成度により評価し、中期計画の個別記載事項ごとにあらかじめ設定された難易度・重要度から評点を算出する。なお、個別記載事項に複数の取組や事業（定量的指標を含む）が位置付けられている場合には、取組や事業毎に評価を行い、平均値を当該個別記載事項ごとの達成度とする。

達成度	判断の目安
V 年度計画を予定よりはるかに上回って実施している	<ul style="list-style-type: none"> 年度計画における所期の目標を上回る顕著な実績や特に優れた成果が得られている 定量的指標においては達成度が目標値の120%以上
IV 年度計画を予定より上回って実施している	<ul style="list-style-type: none"> 年度計画における所期の目標を上回る実績や成果が得られている 定量的指標においては達成度が目標値の110%以上120%未満
III 年度計画を予定どおり実施している【標準】	<ul style="list-style-type: none"> 年度計画における所期の目標を達成している 定量的指標においては達成度が目標値の90%以上110%未満
II 年度計画の実施状況が予定を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 年度計画における所期の目標を下回っており、改善を要する 定量的指標においては達成度が目標値の60%以上90%未満
I 年度計画の実施状況が予定を著しく下回っている	<ul style="list-style-type: none"> 年度計画における所期の目標を下回っており、抜本的な改善を要する 定量的指標においては達成度が目標値の60%未満

なお、令和2年度に引き続き、令和3年度に関しても、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた項目のうち、公立大学法人として、代替案を検討または実施することが著しく困難であったと認めるものに限り、評価を実施しない。

(評点の算出方法)

達成度 難易度・重要度	I	II	III	IV	V
	年度計画の実施状況が予定を著しく下回っている	年度計画の実施状況が予定を下回っている	年度計画を予定どおり実施している【標準】	年度計画を予定より上回って実施している	年度計画を予定よりはるかに上回って実施している
D 1	3	3	4	5	5
D 2	2	3	4	4	5
D 3	1	2	3	3	4

(難易度・重要度の考え方と第三期中期計画における設定)

難易度 ・重要度	定義	第三期中期計画における設定
D 1	設立団体である市の重要施策と関連する取組や国の施策・動向に関連する取組	[6] 優秀な学生の確保と県内出身者の入学促進 [7] 就職・キャリア支援と県内企業の認知度向上
D 2	公立大学法人並びに大学の業務遂行及び管理運営の改革・改善に資する取組	[3] 他機関から講師等を招いて実施する授業や学習活動 [4] 地域での体験学習や学外学習活動 [17] 地域の政策課題・産業界のニーズに即した研究・教育活動の展開 [26] 優秀で多様な教職員の確保と評価制度の導入・実施
D 3	公立大学法人並びに大学の業務遂行に係る一般的な取組	上記以外

(3) 全体評価の方法

「項目別評価」の結果を踏まえ、公立大学法人の業務全体の実績評価について、記述式により、年度計画を総括する。特に、地域の高等教育機関としてさらに発展するために、大学の特色ある取組やさまざまな工夫について積極的に評価し、記述するとともに、必要に応じて組織や業務の課題や改善点等も記述する。

2 全体評価

公立大学法人宮崎公立大学は、平成19年度の公立大学法人化以降、主体的・自律的な大学運営に努めている。

令和3年度は、公立大学法人の設立者である宮崎市が平成30年9月に定め、公立大学法人へ指示を行った第三期中期目標（目標期間：平成31年4月1日から令和7年3月31日まで）の達成に向けて、52項目の計画に取り組んだ。

評価委員会において、公立大学法人の作成した業務実績報告書をもとに、公立大学法人の意見を聴取しながら、各計画の業務実績について評価を行った結果、後述のとおり中期目標に掲げる8つの項目中、1つの項目で中期計画の進捗は順調、7つの項目で中期計画の進捗は概ね順調であると判断した。

このことから、令和3年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体として概ね順調に進捗していると評価する。

なお、令和3年度の業務実績のうち特色や工夫ある大学の取組として、以下を確認したところであり、今後も地域の高等教育機関として更なる発展に取り組まれない。

- ・年度計画番号 〈1〉イ

専任教員を対象としたアンケートの結果をもとに、「リベラルアーツにおける分野横断的な学び」を可視化した「宮崎公立大学カリキュラムマップ（仮称）」を作成し、学生に示していくことを決定した。

- ・年度計画番号 〈3〉ア

一般社団法人生命保険協会による寄附講座「生命保険概論」を開講し、15回の授業を行った。また、令和2年度に引き続き、連合宮崎による寄附講座「労働・雇用リテラシー」を開講した。

- ・年度計画番号 〈4〉ア・イ

地域の課題に対する対応策をチームで実践までつなげていく科目として「基幹演習C」を開講し、「県内在住者が飲食店をSNSで支援する仕組みの構築」及び「一ツ葉エリアの観光資源の掘り起こしのためのモデルツアー実施と市民への周知」をテーマに取り組んだ。

終了後は振り返りを行い、令和4年度に向けた改善策を検討した。

- ・年度計画番号 〈5〉ア

ディプロマ・ポリシーに関連付けられた「行動目標」を定め、個々の授業においてどの「行動目標」が獲得されるかについて、シラバスに明記することを決定した。

これにより、個々の授業において、どのような能力が身につくのか、教育目標がどの程度達成できるのかが明確になり、学修成果の可視化につながると考える。

・年度計画番号 〈7〉ア

令和3年度入学者選抜の動向分析を行い、令和3年度入学者選抜時には開設できなかった福岡試験会場を、令和4年度入学者選抜時には新型コロナウイルス感染症対策を実施したうえで開設するなど、必要な改善を行った。

・年度計画番号 〈9〉ア・イ

学生に対し、県内企業に就職した場合のメリットを各ガイダンスにおいて説明したほか、2年生の必修科目「キャリア設計Ⅱ」において、卒業生が就職した県内企業約10社の概要を説明した。

また、県内就職希望者と県内企業の接点を増やす取組として、セミナーや説明会等を開催したところ、業界研究セミナーは前年度よりも6社多い19社の開催となった。

・年度計画番号 〈10〉ア

令和4年度「インターンシップ論」における単位取得要件について、短期プログラムから長期実践型プログラムに変更することを確認したほか、大学とのインターンシップに関心を持っている企業（7社）との連携に向けた取組を進め、より教育的効果の高いインターンシップとなるよう努めた。

・年度計画番号 〈12〉ウ

教職課程履修中の1～3年生を対象に、教員採用試験合格者（4年生）及び教職課程担当教員との座談会を開催した。

また、現職教諭等による「英語教育フォーラム」をオンラインで開催したところ、発表者や講演者に対する質問が多数寄せられるなど、学生の積極的な参加を促すことができた。

・年度計画番号 〈16〉ア

令和3年度「学術研究推進助成事業」に対して5件の申請があり、そのすべてが採択された。また、そのうち1件は本助成金を活用し図書出版を行い、残り4件については研究発表が行われた。

・年度計画番号 〈17〉イ

サバティカル制度による研究支援について、学内協議や他大学の調査を行った。また後期には大学独自のサバティカル制度の要綱作成に着手し、令和4年度も要綱作成を継続することを確認した。

・年度計画番号 〈20〉ア

地域貢献コーディネーターによる県内全自治体と企業等訪問を実施し、各自治体や企業ニーズの把握に努めた。

また、日本航空株式会社による学生向けの座談会を実施するなど、企業と連携した取組を進めた。

- ・年度計画番号 〈21〉ア・イ
 定期公開講座、自主講座、語学講座等をオンラインを活用しながら実施した。
 オンラインについては、遠方からも受講できるなどのメリットもあることから、今後は、対面・オンラインそれぞれのメリットを活かしながらの講座運営を検討する必要があることを確認した。
- ・年度計画番号 〈22〉ア
 大学のリカレントプログラムとして初の開設講座となる「ホテル接客英語講座（全10回＋修了認定試験）」を実施した。
 受講者アンケートや企業へのヒアリングにより、引き続き講座開設に対するニーズを把握できたことから、令和4年度も実施する予定とした。
- ・年度計画番号 〈23〉ア
 平成29年度に協定解消の申し入れがなされていたニュージーランド・ワイカト大学と大学間協定を再締結した。
 これにより、令和4年度から公費派遣留学と異文化実習が実施できることとなった。
- ・年度計画番号 〈35〉イ
 ハラスメント防止のための対策として、教職員や学生、ハラスメント防止・対策委員会委員、相談員に対する各種研修を行った。また、学内アンケートを実施し、その結果を公表したほか、教職員によるセルフチェックの項目について、最新の法令や動向も取り入れるなどの工夫をすることとした。
- ・年度計画番号 〈42〉ア
 学校推薦型選抜Ⅰ及び学校推薦型選抜Ⅱの志願状況を分析したところ、特に学校推薦型選抜Ⅱの志願者が減少傾向であるため、県内高校訪問等の際に、高校側への聞き取りを行うなど、引き続き状況を確認していくこととした。
 また、学校推薦型選抜Ⅱにおいて、九州外からの志願者のうち、四国からの志願者の割合が高いことが分かったことから、今後四国での広報活動の実施についても検討していくこととした。
- ・年度計画番号 〈44〉ア
 令和3年度から、新たに「一般社団法人生命保険協会」と「街市実行委員会」による寄附講座を開設し、寄附講座は4つとなった。
 さらに、日本税理士連合会（南九州税理士会宮崎県連合会）による寄附講座を令和6年度に開設することを決定した。
- ・年度計画番号 〈46〉ウ
 福利厚生棟のリニューアルについて、公募型プロポーザル方式により選定した企業と運営委託契約を締結し、令和4年4月1日にプレオープンする予定となった。

- ・年度計画番号 〈49〉イ

認証評価の際の重点評価項目となる「内部質保証体制」の整備について、改革推進会議の下部会議体として内部質保証に関する専門委員会を発足させた。

また、内部質保証に係る責任の所在を明確にするため、改革推進会議規程の改正を行うとともに、内部質保証の推進を恒常的・継続的に行うことを明文化した内部質保証に関する方針を策定した。

- ・年度計画番号 〈52〉ア

9名の外部委員による、教育内容を検証するための有識者会議を、オンラインにて3回開催した。有識者会議からは「宮崎公立大学における今後の教育内容の在り方について」の提言が大学に提出された。

また、令和2年度に引き続き、令和3年度も1年を通じて新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大学運営に苦慮されたものと拝察する。

そのような中においても、ウィズコロナの視点から各種事業に取り組みられたことに対し、以下のとおり意見するので参考とされたい。

- ・コロナ禍において、事業実施にあたり制限が多い中、計画の実行には随所に工夫がみられ、留まることなく業務を遂行しようとする前向きな姿勢が見受けられた。オンラインなどの新しい取組は、今後の活動における選択肢を増やし、活動の幅を広げるものであることから、今後もこのような取組を継続しながら事業推進にあたられたい。

3 項目別評価

<評価結果の概要>	S	A	B	C	D
(1) 教育に関する目標		○			
(2) 研究に関する目標			○		
(3) 地域貢献に関する目標			○		
(4) 国際化に関する目標			○		
(5) 業務運営の改善及び効率化に関する目標			○		
(6) 財務内容の改善に関する目標			○		
(7) 自己点検・評価及び情報公開・提供に関する目標			○		
(8) 大学改革に関する目標			○		

(1) 教育に関する目標

評価	判断理由
A 中期計画の進捗は順調	「個別記載事項ごと」の評点の平均値が3.5以上4.2以下であること等を総合的に勘案したことによる。

個別記載事項 ※括弧書きは業務実績報告書の頁番号	計画 番号	達成度		難易度 重要度	評点
		個別	全体		
[1]教養教育における「国際文化学」の体系化 (12 頁)	〈1〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈1〉イ	Ⅲ			
[2]外国語によるコミュニケーション能力の育成 (13 頁)	〈2〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈2〉イ	Ⅲ			
[3]他機関から講師等を招いて実施する授業や学習活動 (15 頁)	〈3〉ア	Ⅳ	Ⅳ	D 2	4
[4]地域での体験学習や学外学習活動 (16 頁)	〈4〉ア	Ⅳ	Ⅳ	D 2	4
	〈4〉イ	Ⅳ			
[5]教員の教育能力の向上と教育の質の改善・向上 (17 頁)	〈5〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈5〉イ	Ⅲ			
[6]優秀な学生の確保と県内出身者の入学促進 (20 頁)	〈6〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 1	4
[6]優秀な学生の確保と県内出身者の入学促進 (21 頁)	〈7〉ア	Ⅳ	Ⅳ	D 1	5
[6]優秀な学生の確保と県内出身者の入学促進 (22 頁)	〈8〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 1	4
[7]就職・キャリア支援と県内企業の認知度向上 (23 頁)	〈9〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 1	4
	〈9〉イ	Ⅲ			
[7]就職・キャリア支援と県内企業の認知度向上 (24 頁)	〈10〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 1	4

[8]教職に関する学生の資質向上 (25 頁)	〈11〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈11〉イ	—			
[9]教職関連の就職を目指す学生の就職支援 (26 頁)	〈12〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈12〉イ	Ⅲ			
	〈12〉ウ	Ⅲ			
[10]心身の健康に係る支援や障がいのある学生への支援 (28 頁)	〈13〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈13〉イ	Ⅲ			
[11]経済的支援の充実及び「授業料減免及び給付型奨学金」への対応 (30 頁)	〈14〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈14〉イ	Ⅲ			
[12]個々の学生に対応した履修相談や学習相談 (32 頁)	〈15〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈15〉イ	Ⅲ			
合計					5 3
個別記載事項ごとの評点平均値 (合計値÷個別記載事項の数)					3.5

(特筆すべき点)

・年度計画番号 〈3〉ア

一般社団法人生命保険協会による寄附講座「生命保険概論」を開講し、15回の授業を行った。また、令和2年度に引き続き、連合宮崎による寄附講座「労働・雇リテラシー」を開講した。

・年度計画番号 〈4〉ア・イ

地域の課題に対する対応策をチームで実践までつなげていく科目として「基幹演習C」を開講し、「県内在住者が飲食店をSNSで支援する仕組みの構築」及び「一ツ葉エリアの観光資源の掘り起こしのためのモデルツアー実施と市民への周知」をテーマに取り組んだ。

終了後は振り返りを行い、令和4年度に向けた改善策を検討した。

・年度計画番号 〈7〉ア

令和3年度入学者選抜の動向分析を行い、令和3年度入学者選抜時には開設できなかった福岡試験会場を、令和4年度入学者選抜時には新型コロナウイルス感染症対策を実施したうえで開設するなど、必要な改善を行った。

(その他留意点)

・年度計画番号 〈4〉ア・イ

地域の課題解決に向けたこのような取組が行われていることを評価する。必要な改善を行いながら、より一層取組を推進されたい。

- ・年度計画番号 〈7〉ア
新入学者選抜の検証と改善においては、ウィズコロナ、アフターコロナを十分意識し、県内外の大学の動向を注視すべきである。今後地元志向が定着するのか、反動があるのかの見極めを行ったうえで、県内出身者の入学促進という重点目標に取り組みたい。
- ・年度計画番号 〈9〉イ
中期目標における重点目標になっている県内就職率の向上について、県内出身者の県内就職率の実績については評価できる。今後、県内出身者はもとより、県外出身者の県内就職に対しても、学生に寄り添った対応を工夫されたい。
- ・年度計画番号 〈10〉ア
インターンシップに関して、大学と関係を有する企業や、大学とのインターンシップに関心を持っている企業が7社となり、各企業との連携に向けた取組が行われていることを評価する。今後更なる広報活動により、連携が拡大されることを期待する。
- ・年度計画番号 〈14〉ア
大学独自の奨学金制度の採用は非常に狭き門であることから、県内出身者に加点する項目を設けるなど、県内出身者の入学意欲の拡大に繋げてはどうか。
- ・年度計画番号 〈15〉
次年度以降の年度計画では、履修相談会等を「実施する」といったアウトプット型ではなく、成果を示すアウトカム型の実施事項を示していただくことを期待する。

(その他)

- ・年度計画番号 〈11〉イ
新型コロナウイルス感染症の影響により、受入れ先の校務等に支障が生じ、実施に向けての調整が困難となったことで、科目開設の申請手続きに入れなかったことから、評価を実施しない。

(2) 研究に関する目標

評価	判断理由
B 中期計画の進捗は概ね順調【標準】	「個別記載事項ごと」の評点の平均値が2.7以上3.4以下であること等を総合的に勘案したことによる。

個別記載事項 ※括弧書きは業務実績報告書の頁番号	計画 番号	達成度		難易度 重要度	評点
		個別	全体		
[13]各種助成事業を活用した研究活動の活性化(34頁)	〈16〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D3	3
[14]研究の質の向上と研究環境の整備(35頁)	〈17〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D3	3
	〈17〉イ	Ⅲ			
[15]研究成果の地域社会への還元(36頁)	〈18〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D3	3
[15]研究成果の地域社会への還元(36頁)	〈19〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D3	3
合計					12
個別記載事項ごとの評点平均値(合計値÷個別記載事項の数)					3.0

(特筆すべき点)

- ・特になし

(遅れている点)

- ・特になし

(その他留意点)

- ・特になし

(3) 地域貢献に関する目標

評価	判断理由
B 中期計画の進捗は概ね順調【標準】	「個別記載事項ごと」の評点の平均値が2.7以上3.4以下であること等を総合的に勘案したことによる。

個別記載事項 ※括弧書きは業務実績報告書の頁番号	計画 番号	達成度		難易度 重要度	評点
		個別	全体		
[16]地域貢献に関する基本方針の見直し (37 頁) ※ 令和元年度をもって終了	—	—	—	D 3	—
[17]地域の政策課題・産業界のニーズに即した研究・ 教育活動の展開 (38 頁)	〈20〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 2	4
	〈20〉イ	Ⅲ			
[18]ニーズに即した生涯学習事業の推進 (39 頁)	〈21〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈21〉イ	Ⅲ			
[19]地域の多様な学習ニーズに対応したリカレント教育の推進 (40 頁)	〈22〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
合計					10
個別記載事項ごとの評点平均値 (合計値÷個別記載事項の数)					3.3

(特筆すべき点)

- ・特になし

(遅れている点)

- ・特になし

(その他留意点)

- ・特になし

(4) 国際化に関する目標

評価	判断理由
B 中期計画の進捗は概ね順調【標準】	「個別記載事項ごと」の評点の平均値が2.7以上3.4以下であること等を総合的に勘案したことによる。

個別記載事項 ※括弧書きは業務実績報告書の頁番号	計画 番号	達成度		難易度 重要度	評点
		個別	全体		
[20]国際交流に関する基本方針の見直し(41頁) ※ 令和元年度をもって終了	—	—	—	D3	—
[21]新たな海外協定校の開拓(42頁)	〈23〉ア	Ⅳ	Ⅳ	D3	3
[22]留学生の受入れプログラムの充実(43頁)	〈24〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D3	3
[23]地域社会における国際交流活動の推進(44頁)	〈25〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D3	3
	〈25〉イ	Ⅲ			
[24]市内の小・中学校等の教育機関と連携した教育研究活動(45頁)	〈26〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D3	3
合計					12
個別記載事項ごとの評点平均値(合計値÷個別記載事項の数)					3.0

(特筆すべき点)

- ・年度計画番号 〈23〉ア

平成29年度に協定解消の申し入れがなされていたニュージーランド・ワイカト大学と大学間協定を再締結した。

これにより、令和4年度から公費派遣留学と異文化実習が実施できることとなった。

(遅れている点)

- ・特になし

(その他留意点)

- ・特になし

(5) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	判断理由
B 中期計画の進捗は概ね順調【標準】	「個別記載事項ごと」の評点の平均値が 2.7 以上 3.4 以下であること等を総合的に勘案したことによる。

個別記載事項 ※括弧書きは業務実績報告書の頁番号	計画 番号	達成度		難易度 重要度	評点
		個別	全体		
[25]適切な意思決定と組織及び業務運営の改善(46頁)	〈27〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈27〉イ	Ⅲ			
[26]優秀で多様な教職員の確保と評価制度の導入・実施(47頁)	〈28〉ア	Ⅱ	Ⅲ	D 2	4
	〈28〉イ	Ⅲ			
[26]優秀で多様な教職員の確保と評価制度の導入・実施(47頁)	〈29〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 2	4
[26]優秀で多様な教職員の確保と評価制度の導入・実施(48頁)	〈30〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 2	4
	〈30〉イ	Ⅲ			
[26]優秀で多様な教職員の確保と評価制度の導入・実施(48頁)	〈31〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 2	4
[27]教職員の能力及び資質向上への取組(49頁)	〈32〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈32〉イ	Ⅲ			
[28]法令遵守の徹底による適切な大学運営の実施(50頁)	〈33〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈33〉イ	Ⅲ			
[28]法令遵守の徹底による適切な大学運営の実施(50頁)	〈34〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
[29]ハラスメント防止・対策の徹底(51頁)	〈35〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈35〉イ	Ⅲ			
	〈35〉ウ	Ⅲ			
[30]災害等の有事における危機管理への対応(54頁)	〈36〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈36〉イ	Ⅲ			
	〈36〉ウ	—			
[31]個人情報をはじめとする情報管理への対応(55頁)	〈37〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈37〉イ	Ⅱ			
[31]個人情報をはじめとする情報管理への対応(56頁)	〈38〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈38〉イ	Ⅱ			
合計					40
個別記載事項ごとの評点平均値(合計値÷個別記載事項の数)					3.3

(特筆すべき点)

- ・特になし

(遅れている点)

- ・年度計画番号 〈28〉ア

教員評価制度の導入に関し、教員評価（案）の策定に着手する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の対応を優先したことで実現に至らず、令和4年度以降の策定を目指すこととなった。

- ・年度計画番号 〈37〉イ

教職員向けのセキュリティ研修を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により実現に至らず、令和4年度早期に実施することとなった。

- ・年度計画番号 〈38〉イ

情報資産の保管方法・場所についての新たな課題を確認したことから、対応スケジュールの策定には至らなかった。

(その他留意点)

- ・特になし

(その他)

- ・年度計画番号 〈36〉ウ

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、受講を予定していた救命講習会が中止となり、実施が困難となったことから、評価を実施しない。

(6) 財務内容の改善に関する目標

評価	判断理由
B 中期計画の進捗は概ね順調【標準】	「個別記載事項ごと」の評点の平均値が2.7以上3.4以下であること等を総合的に勘案したことによる。

個別記載事項 ※括弧書きは業務実績報告書の頁番号	計画 番号	達成度		難易度 重要度	評点
		個別	全体		
[32]経費の削減及び効果的な予算編成 (57 頁)	〈39〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈39〉イ	Ⅲ			
	〈39〉ウ	Ⅲ			
[33]安定的な志願者及び入学者の確保 (58 頁)	〈40〉ア	Ⅲ	Ⅳ	D 3	3
	〈40〉イ	Ⅳ			
[33]安定的な志願者及び入学者の確保 (59 頁)	〈41〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈41〉イ	Ⅲ			
	〈41〉ウ	Ⅲ			
[33]安定的な志願者及び入学者の確保 (60 頁)	〈42〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
[33]安定的な志願者及び入学者の確保 (62 頁)	〈43〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈43〉イ	Ⅲ			
[34]産学官等との連携による寄附講座の開設 (63 頁)	〈44〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
[35]研究活動における外部資金の獲得 (64 頁)	〈45〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈45〉イ	Ⅱ			
[36]長寿命化計画に基づく施設設備の整備と有効活用 (65 頁)	〈46〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈46〉イ	Ⅲ			
	〈46〉ウ	Ⅳ			
[37]計画的な情報システムの整備と有効活用 (66 頁)	〈47〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈47〉イ	Ⅲ			
	〈47〉ウ	Ⅱ			
合計					2 7
個別記載事項ごとの評点平均値 (合計値÷個別記載事項の数)					3.0

(特筆すべき点)

- ・年度計画番号 〈40〉イ

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じ、参加者を絞ったうえで、オープンキャンパス開催した(全3回)。参加者へのアンケートの結果、概ね80%を超える満足度を得ることができた。

- ・年度計画番号 〈46〉ウ

福利厚生棟のリニューアルについて、公募型プロポーザル方式により選定した企業と運営委託契約を締結し、令和4年4月1日にプレオープンする予定となった。

(遅れている点)

- ・年度計画番号 〈45〉イ

科学研究費以外の外部研究助成事業の応募件数は、2件に留まった。

- ・年度計画番号 〈47〉ウ

令和4年度に更新を予定している2件のシステムについて、新型コロナウイルス感染症の影響により、その準備の進捗に遅れが生じている。

(その他留意点)

- ・年度計画番号 〈40〉ア

語学以外の分野で、大学の特色を具体的にアピールするよう検討されたい。

(7) 自己点検・評価及び情報公開・提供に関する目標

評価	判断理由
B 中期計画の進捗は概ね順調【標準】	「個別記載事項ごと」の評点の平均値が2.7以上3.4以下であること等を総合的に勘案したことによる。

個別記載事項 ※括弧書きは業務実績報告書の頁番号	計画 番号	達成度		難易度 重要度	評点
		個別	全体		
[38]法人評価と認証評価を通じた改善活動（67頁）	〈48〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈48〉イ	Ⅲ			
[38]法人評価と認証評価を通じた改善活動（67頁）	〈49〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈49〉イ	Ⅲ			
[39]適切な情報公開と認知度向上に向けた広報活動の展開（68頁）	〈50〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
[39]適切な情報公開と認知度向上に向けた広報活動の展開（68頁）	〈51〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈51〉イ	Ⅲ			
	〈51〉ウ	Ⅲ			
合計					12
個別記載事項ごとの評点平均値（合計値÷個別記載事項の数）					3.0

(特筆すべき点)

- ・特になし

(遅れている点)

- ・特になし

(その他留意点)

- ・特になし

(8) 大学改革に関する目標

評価	判断理由
B 中期計画の進捗は概ね順調【標準】	「個別記載事項ごと」の評点の平均値が2.7以上3.4以下であること等を総合的に勘案したことによる。

個別記載事項 ※括弧書きは業務実績報告書の頁番号	計画 番号	達成度		難易度 重要度	評点
		個別	全体		
[40]時代の変化に対応した教育改革 (70 頁)	〈52〉ア	Ⅲ	Ⅲ	D 3	3
	〈52〉イ	Ⅲ			
合計					3
個別記載事項ごとの評点平均値 (合計値÷個別記載事項の数)					3.0

(特筆すべき点)

- ・特になし

(遅れている点)

- ・特になし

(その他留意点)

- ・年度計画番号 〈52〉イ

大学の今後の方針を検討するにあたっては、設置団体である宮崎市の考え方や、公民連携の視点を取り入れながら、時代の変化に対応した大学の在り方を常に検討されたい。